

### ●マルチン郡への子どもたちのために図書購入用寄付金を贈呈しました(7/12~14)

私たちエコユニオンが、モンゴルとの交流を1999年8月から開始して17年が経ちました。その間、四次にわたる図書贈呈交流団の派遣、写真展「大好きなモンゴル展」の開催、そして、昨年はマルチン郡生誕90周年記念式典への図書贈呈など、様々なイベントを通じて交流の輪を広げることができました。神鋼連合加盟組合をはじめとした各種団体からのご支援、特に、第三・四次図書贈呈交流団への参加やチャリティバザーへの物資提供など、神鋼鋼線工業労組の全面的なご協力には心から感謝する次第です。

この度、チャリティバザーや寄付など、これまでに蓄えてきた図書購入用寄付金(20万円)をモンゴル国側のカウンターパートであるデムベレル氏に手渡すことに加え、当労組としてのモンゴルとの交流に対する、今後の方針をデムベレル氏に直接伝えるために、7月12日(火)から14日(木)にかけてウランバートルを訪問しました。

ウランバートル到着後、デムベレル氏宅へ訪問。図書購入用寄付金を贈呈したと共に、今回の訪蒙の意図をお伝えしました。まずは川端より「私がこの立場となってからの4年間、モンゴルとの交流をどの様にしていけばいいか、自問自答続けてきたと共に執行部内でも議論を重ねてきました」、「図書贈呈団はマルチン郡の人々、子どもたちや大自然との触れ合いなど、無形の財産として団員の記憶と心いつまでも残る素晴らしい経験をもたらしてくれた活動です。しかし、マルチン郡までの国内線や陸路での移動、昨今の海外での事故や事件など考えるとあまりにもリスクが大きいと感じています。今後は図書贈呈団を派遣しないと考えています」。それに対し、デムベレル氏からは「皆さん方の考え、決断を尊重します。これまでの皆さん方の活動に心から感謝したい。寄付金の使い道はマルチン郡とも協議して決めていきます。皆さんの繋がりがゼロになるとは思っていない今後もよろしくお願いします」との言葉をいただきました。

モンゴルとの交流は海外交流と社会貢献活動を通じた人材育成が目的でしたが、今後は図書購入用寄付金を無理なく届ける社会貢献を目的とした活動にシフトしていきたいと考えています。今期も残り僅かではありますが、しっかりと総括し、そこでの議論も踏まえた内容を来期の運動方針(案)に落とし込み、職場説明会で組合員の皆さんへ説明し、理解と協力を求めて参ります。

この度の訪蒙で、デムベレル氏に直接会い、当労組としてのモンゴルとの交流に対する、今後の方針(考え)をデムベレル氏に直接伝えることができたことは、有意義であったと思っています。

いずれにせよ、この度、寄付にご協力いただいた皆さん、派遣にご理解、ご協力いただいたユニオン会員の皆さんと執行部各位、急な訪蒙にも関わらず快く受け入れて頂いたデムベレル氏と奥様に感謝致します。ありがとうございました!(執行委員長 川端 健 記)



▲これまでの感謝とこれからの想いをお伝えしました